

鏡石町立鏡石中学校  
学校だより 第38号

# 最 善 美

「最善を尽くせ」  
「美しくあれ」

令和6年2月5日(月) 発行責任者: 校長 津金光彦

## いよいよ県立高校前期選抜に向けてラストスパート!

私立高校の入試が終わり、先週までに、すべての私立高校で合格発表が行われました。私立高校を第一志望【専願】としている生徒は、4月からの進学先が決定しました。おめでとうございます。

併願受験をした生徒は、これから県立高校前期選抜に向けて、いよいよラストスパートです。合格を勝ち取るべく「**最善を尽くし**」てほしいです。

鏡中では、県立高校前期選抜の出願を本日5日より開始します。前期選抜は、3月5日(火)、6日(水)、7日(木)に実施されます。あたたかい春は、すぐそこまで来ています! 顔晴れ3年生! 最善を尽くせ3年生!



## 令和5年度鏡石町教育委員会表彰式で9名の生徒が表彰されました!

町教育委員会では、毎年、鏡石町の教育、文化、体育等の振興に功績があった個人・団体の表彰を行っています。今年度も1月25日(木)に町健康福祉センター“ほがらかん”にて表彰式が行われました。今年度、表彰を受けた生徒は以下のとおりです。

- ☆藤井史織 (東北中学校陸上競技大会共通女子100m 5位)
- ☆小林柚嬉 (東北中学校陸上競技大会共通女子100mH 2位)
- ☆二瓶愛梨 (都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会女子団体 5位)
- ☆吾妻尚哉 ☆神能一陽 ☆圓谷わたる ☆関根大斗
- ☆小林颯 (全日本中学生陸上競技選手権大会4×100mR 出場)
- ☆三瓶真綺 (高円宮杯日本武道館書道大展覧会 日本武道館賞[硬筆の部])



## “人に成る”ということ～谷川俊太郎さんの詩から

今年の成人の日に、とある“詩”に出会いました。その内容に、深く心を打たれました。鏡中生や保護者の皆様にもぜひご紹介したいと思い、以下に掲載します。

人間とは常に人間になりつつある存在だ

かつて教えられたその言葉がしこりのように胸の奥に残っている

成人とは人に成ること もしそうなら私たちはみな日々成人の日を生きている

完全な人間はどこにもいない 人間とは何かを知りつくしている者もない

だからみな問いかけるのだ 人間とはいったい何かを

そしてみな答えているのだ その問いに 毎日のささやかな行動で

人は人を傷つける 人は人を慰める 人は人を恐れ 人は人を求める

子どもとおとなの区別がどこにあるのか

子どもは生まれ出たそのときから小さなおとな

おとなは一生大きな子ども どんな美しい記念の晴れ着も どんな華やかなお祝いの花束も

それだけではきみをおとなにはしてくれない 他人のうちに自分と同じ美しさをみとめ

自分のうちに他人と同じ醜さをみとめ でき上がったどんな権威にもしぼられず

流れ動く多数の意見にまどわされず とらわれぬ子どもの魂で いまあるものを組み直しつくりかえる

それこそがおとなの始まり 永遠に終わらないおとなへの出発点

人間が人間になりつつけるための 苦しみと喜びの方法論だ



特に印象に残ったところが斜め字アンダーラインの部分です。“成人とは人に成ること”…成人式という、特別な場面だけでなく、「人に成る」ということを考えれば、「人に成る」ために毎日生きているのが人間なのです。「人に成る」ことができなければ、子どもでも大人でも「成人」なのです。「成人」とはどのようなことか、「人間」とはどのような存在なのかを深く考えさせられた一編の詩でした。